

青森中央学院大学卒業生（看護学部）に関するアンケート集計結果【卒業生用】（令和5年9月発送分）

第4期生 男：7名 女：71名 合計：78名
 第5期生 男：6名 女：70名 合計：76名
 回答数 19 回答率 12.3%

} 154名

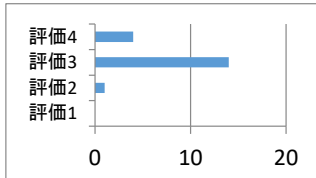
1. 本学卒業生について

評価基準

評価4 そう思う 評価3 ややそう思う 評価2 あまり思わない
 評価1 全く思わない

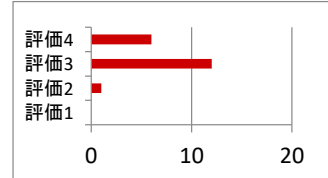
1)看護学の基礎的な理論をもとに、対象を理解できる。

評価4	4
評価3	14
評価2	1
評価1	0



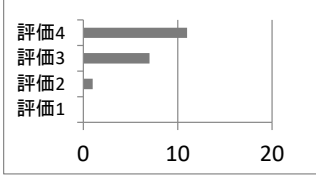
2)対象の健康課題を分析し、問題点を明らかにできる。

評価4	6
評価3	12
評価2	1
評価1	0



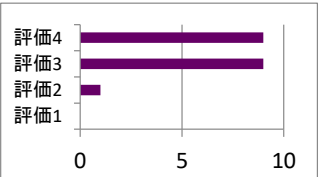
3)対象に合わせた看護を実践している。

評価4	11
評価3	7
評価2	1
評価1	0



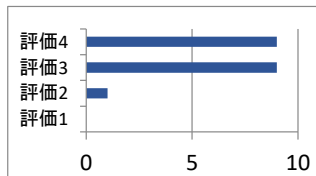
4)科学的根拠を理解し、看護援助を実施している。

評価4	9
評価3	9
評価2	1
評価1	0



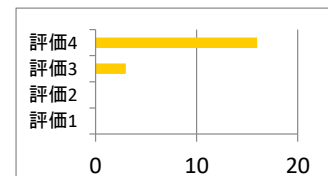
5)看護の対象と適切な関係を形成している。

評価4	9
評価3	9
評価2	1
評価1	0



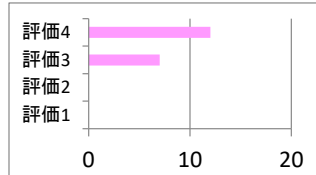
6)チーム医療の重要性を認識し、多職種等と連携している。

評価4	16
評価3	3
評価2	0
評価1	0



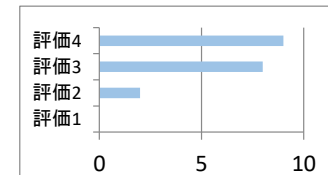
7)対象の人権を尊重し、擁護する倫理観がある。

評価4	12
評価3	7
評価2	0
評価1	0



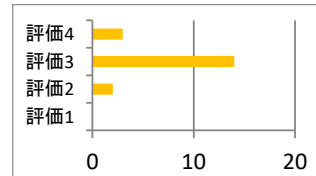
8)自ら疑問をもち、問題解決に向けて努力できる。

評価4	9
評価3	8
評価2	2
評価1	0



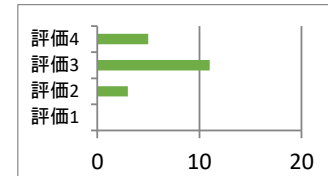
9)人的・物理的・経済的な資源を調整できる。

評価4	3
評価3	14
評価2	2
評価1	0



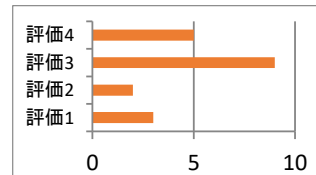
10)専門職として自己研鑽している。

評価4	5
評価3	11
評価2	3
評価1	0



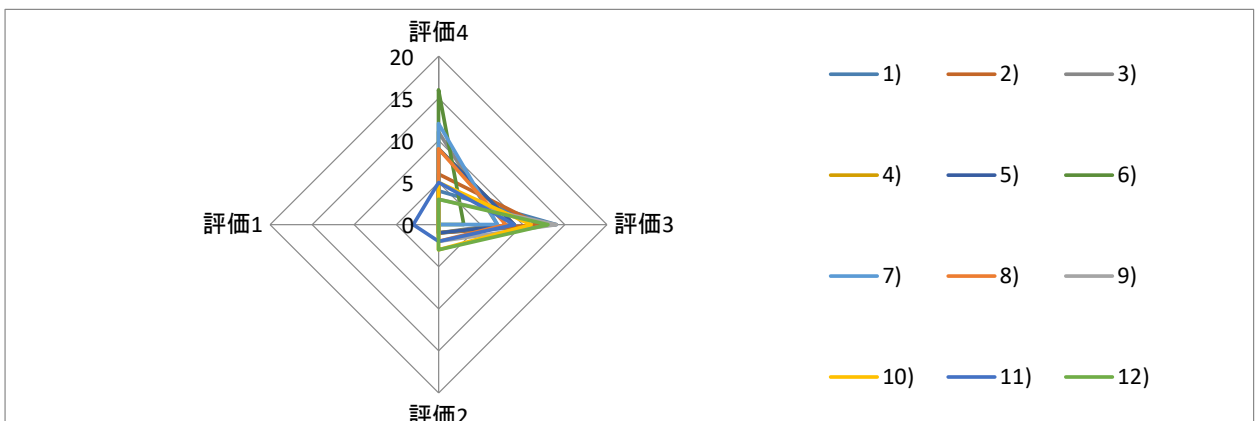
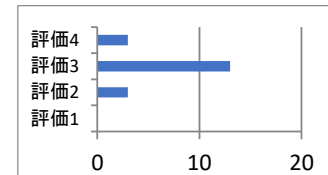
11)専門職としての将来の目標を持っている。

評価4	5
評価3	9
評価2	2
評価1	3



12)自己の看護観を形成し、他者に表現できる。

評価4	3
評価3	13
評価2	3
評価1	0



青森中央学院大学卒業生（看護学部）に関するアンケート集計結果【卒業生用】（令和5年9月発送分）

2-1. 職種について

入職時 保健師：1名 助産師：0名 看護師：17名 准看護師：1名 その他：0名
 現在 保健師：1名 助産師：0名 看護師：18名 准看護師：0名 その他：0名

2-2. 在学中に学んで身についた、現在の看護に活かされていると思うこと

- ・ 基礎的な看護技術。
- ・ グループワークでのコミュニケーションでコミュニケーション力が向上した。
- ・ 患者の健康課題を明らかにしそれらの問題を解決するだけでなく、精神的援助の重要性を活かす事ができている。例えば“疼痛”＝“指示薬の投与”で終わらせてしまいがちだが、しっかりと患者の訴えを聴いたり、訪室頻度を増やしてみたり患者の内面に着目する事の大切さは、在学中の講義、実習にて学んだ事である。薬だけでは治すことのできない訴えばかりだと実感している。
- ・ グループワークの機会が多かったため、自分の考えを述べみんなて話し合う力を大学で得たと思う。臨床の現場では、自分一人での思い込みで動くことは危険であるため、疑問に感じたことやアセスメントしたことを常に先輩に相談している。とても大切なことだと思った。
- ・ 対象者の気持ちを傾聴し、相手の考え方を尊重したうえで、共感の姿勢で関わることができる。
- ・ 実習（患者とのコミュニケーションの取り方、問題点の抽出、ケアの進め方など、実際の現場で受け持ち患者に対して、自分なりに考えたり働いている方からのアドバイス（実施できた経験は大きい）は働いてからも同様なため）
- ・ 基礎的技術と知識、アセスメント力は活かされていると思います。疑問を持つこと、自分で考える力の素が身についたと思います。
- ・ 患者への関わり方。学内実習の術後の観察で全身を見ると学んだ。その学内実習がすごく記憶に残っておりすごく役に立った。
- ・ 基礎看護学。解剖生理学。
- ・ 成人看護学など、急性期看護に関する学びは、現在も急性期病棟での看護に活かせていると感じる。

2-3. 在学中にもっと学んでおけばよかったと思うこと

- ・ 解剖生理学。もっと患者さんの症状や病態について、疑問をもったり理解を深められると思った。
- ・ 大学のカリキュラムには含まれていないが「勉強、又は情報として知りたかったなあ…」ということ→電子カルテの使い方、記録（特にサマリー）の内容処方仕組み日勤で10人程度受け持つ事、時間外残業の多さ、家族対応（クレームも含む）etc…実習での「看護」との違いがありすぎたこと。
- ・ 最近、研修でフィジカルアセスメントの実践について勉強したが、在学中にもっとしっかり学んでおけばよかったと感じた。症状に対する身体観察のアセスメント力がまだまだ足りないと感じつつ、在学中の基礎知識の勉強が重要だとひしひしと実感する。
- ・ 健康な子供の発達だけでなく、自閉傾向のある子のことについて、もっと勉強すればよかった。血圧や血糖など住民の目線で理解できるように説明するにはどうすればよいかを詳しく熱心に勉強すればよかった。
- ・ 解剖生理学（理解していないと身体を見れないため）。
- ・ 看護師として必要不可欠な病態生理学・解剖生理学をきちんと学んでおいた方が良かったと思う。常に患者の疾患や訴え、症状を結びつけて考える必要があるため。
- ・ 解剖学、疾患に特化した検査・手術など。
- ・ 解剖生理学をきちんと学んでいれば良かったと感じる。
- ・ 解剖、疾患について、アセスメント。
- ・ 生理学、病態。
- ・ 人体解剖。
- ・ 心電図。
- ・ チーム医療。

青森中央学院大学卒業生（看護学部）に関するアンケート集計結果【卒業生用】（令和5年9月発送分）

2-4. 卒業後に感じた自己の成長や変化について

- ・多職種と連携し、最善の看護や援助ができるように促すことができる。
- ・大学にての学びは決して無駄ではなく自分自身の「看護」を貫いたこと。図書館でのテキストや文献で読んだ場面が実際にあったり、患者との関わりにて困難が生じた際、先生方から教わった、“傍で寄り添う”ことの効果や看護記録の丁寧さはブレずに手を抜かず取り組んでいる。必ず見てくれている人はいて多職種からも認めてもらうことが増えた時は、大学での学びを活かしさらに成長したり変化を感じたりできている。
- ・1年目で病棟師長によく目をかけて頂き、患者との関わりについてよく指導を頂いた。患者の倫理には配慮しながら関わりを持つ事は本当に難しいことだと思うが、少しずつできるようになっているのではないかと思う。
- ・学生の時に住民の方に質問する際、自分のメモ帳に準備したものを聞くので精一杯だったが、たくさんの住民と関わるうちに、対象者の方とコミュニケーションを取りながら生活背景を想像し、必要な情報収集、支援につなげられるようになった。
- ・認知症病棟で働いているが、患者とのコミュニケーションを円滑に行えるようになった。個別性を考え患者の問題を抽出し、解決へと導く能力を少し身についた気がする。
- ・実践できる看護技術が増えていること
- ・学習が好きになった
- ・自分で考えるということが出来るようになったこと。チームの一員として多職種とも連携をとって看護に活かせること。
- ・3年目になり後輩もできた。自分でわからないことも多いが後輩から質問されそれを自分でまた学び直す。大学で学んだものを見返したりしてます。
慈恵会病院の実習で学んだ食事介助、嚥下がすごく役に立っている。
- ・教科書的知識と臨床での技術に差があることがわかった。
学生時に学んだ知識と臨床に出てからの学びを活かして看護ができています。
- ・がん看護に興味があったが、他の分野にも興味が出てきた
- ・実際に患者と接することで、コミュニケーション能力が徐々に身に付いてきたと感じる。

2-5. 卒業後に取得した資格

- ・ acls

2-6. 将来の目標・今後取得したい資格について

《将来の目標》

- ・手術室看護師としてより一層経験を積み一人前になる。臨床での経験を長年行い教育の場での指導者・教員も視野に入れその準備期間とする。
- ・小児看護に携わることができればぜひ。現在は内科にいるので、外科も経験してみたいのが一番の目標。
- ・多職種と連携を図り保健師の視点での専門性を対象者のために発揮できるようになりたい。
- ・認定看護師の資格を取得すること。
- ・知識や技術を身につけ、向上心を持って新しい学びに取り組みたい。現在、精神科病棟（認知症）で働いているが、どこに行っても通用するようになりたい。
- ・ NP
- ・知識、技術の取得。もっと患者さんと関わる時間をもち親身になり接すること。
- ・今が一生懸命なので将来を考えることができない
- ・保健活動に興味があるため、将来は保健師の仕事をしてみたい。

《今後取得したい資格》

- ・手術看護認定看護師
- ・特定行為（循環器関連創部ドレーン管理関連、動脈血液ガス分析関連）※興味がある区分
- ・認知症認定看護師
- ・ NP
- ・緩和ケアの認定看護師免許

2-7. 大学や後輩へメッセージ等

- ・ 自分自身を大切に。自分に優しく、心の声に注目する。
卒業後、看護師として踏み出す一歩への期待が大きい分、現場でのギャップに苦しむ。凄く辛い時間。頼れる仲間が居てもどこか“他人”すぎて孤独感に襲われる現場。何もわからず4年間の学びへの自信が失われ、心身もすり減っていくのに、周囲からの圧と期待、そして1年目でも関係ない“即戦力”追い込まれ、自分でも追い込んでしまう前に、休む。逃げる。頼る。声を上げること。必ず助けてくれる人はいる、自分に合う環境が必ずある。
新卒で勤めた病院は素敵な病院であったが、辛くて苦しくて味方が居なくて、今になって気付く“自分に合わなかっただけと。青森へ戻ってきて皆に助けられ、社会復帰できた今そう思う事が出来た。必ず自分の居場所はある。輝ける場がある。全く興味がなかったope室へ誘われ、器械出しまでデビューした。病棟や思い描く看護とは正反対のope室の世界。しかし、私にはびったりだと感じている。良きスタッフにもめぐまれ“自分”を取り戻している毎日。だからこそ、自分を大切に優しく労うこと。心は正直だから。
- ・ 病棟師長いわく大卒はアセスメントする力が強みだと言われたことがあります。4年間、じっくりゆっくり看護を学ぶ機会をもらっているの
で、色々自分の考えを持って勉学に臨むことがとても自分の力になると思います。看護学校を卒業してきた同期は多くの実習を経験し、看護技術や実践において強みを持っている子が多いです。自分たちの強みを活かしていけるように、沢山考えて、みんなで共有しあって下さい。また、沢山のレポートや、大変だった看護研究の過程、スライドを用いた発表は意外にもベテランの先輩たちからすると重宝される力なので、大変だと思いますが全力で取り組んで下さい。
- ・ 大学での学びは職場でも多く活用できるので、目標に向かって頑張ってください。
- ・ 実習、国試勉強に耐え抜いた忍耐力は就職後も必ず自分を強くしてくれると思うので、頑張ってください。
- ・ 国家試験に合格してからが勉強の始まりです。
- ・ どこで働こうとも基礎的な知識や技術、考え方はとても活かされるので、しっかりと身につけて欲しいです。
- ・ わからないことをそのままにしない。
- ・ 実習、勉強と大変だと思いますががんばって下さい。
- ・ 大学生活での勉学（課題・実習など）遊びたいのにやる事が沢山あり大変だと思います。勉学も大切ですが、リフレッシュも大切なのでバランスをとって遊ぶことも大切だと思います。今、学んでいることは絶対に看護師になってからも必要な事ばかりです。逃げ出したくなることもあると思いますが、大学に入る際「看護師になる！」と決断し入学した気持ちを忘れず頑張ってください。国試に近づくと焦ったり不安になると思いますが頑張ってください。私は本学に入り、留学もでき看護師の資格も取得でき本当に良かったです。働いてからも自ら学ぶことを求められるため、働きながら勉強するのは大変ですが私も頑張ります。

2-8. 現在、働いている病院施設は卒業時と同じか

1. 卒業時と同じ：17名
2. 卒業時と異なる：2名

2-9. 卒業時に就職した病院・施設の退職時期と退職理由、現在の就業先

《退職時期》 2021.7：1名 2023.4：1名

《退職理由》 地元で就職：1名 その他：1名（精神疾患にて、生きていくことすら危なかった。無理すぎた。）

《現在の就業先》

- ・ 青森県立中央病院
- ・ 医療法人芙蓉会村上病院
- ・ 弘前総合医療センター
- ・ 五所川原市役所
- ・ あおもり協立病院
- ・ 医療法人仁医会釜石のぞみ病院
- ・ 順天堂東江東高齢者医療センター
- ・ 秋田赤十字病院
- ・ 東邦大学医療センター大森病院